

日 時：平成28年2月6日（土）10時～12時

場 所：校長室

出席者：学校協議会委員

門脇 英純（大阪成蹊大学）、里村 潔（箕面市立第六中学校校長）

須貝 昭子（NPO法人「市民活動フォーラムみのお」）、三島 義博（本校PTA会長）

篠崎 朗（本校同窓会長）

事務局員

山崎 政範（校長）、貴治 康夫（教頭）、鎌田 啓（教頭）、川上 慶次郎（首席）

野田 恒三（ガイダンス部長）、上原口 理香（教務部長）、藤田 晋太郎（1年次主任）

宮守 陽介（ES2期）

内 容：【説明・報告事項】

1. 今年度の進路状況
2. エンパワメント1期生の1年を振り返って

【協議事項】

1. 平成27年度・学校経営計画および学校評価
2. 平成28年度・学校経営計画および学校評価
3. 学校教育自己診断アンケート結果
4. その他

【説明・報告事項】

（1）今年度の進路状況（野田）

- ・CS9期生については例年に比べて進路未決定が多いが、ガイダンス部では生徒が「目的のないフリーター」にならないように、個別面談を入念に行い生徒に将来の見通しを持たせるように取り組んでいる。具体的な進路状況は4月以降に、ホームページ等で公表する予定である。

（意見）

- ・進路未決定者はどのような生徒なのか？（門脇委員）

→ 現在のアルバイト先で、いずれ社員になるために卒業後もアルバイトを継続する生徒など生徒によって事情は様々である。（野田）

- ・専門学校を選択する生徒が多いように感じるが。（篠崎委員）

→ 専門学校を薦めている訳ではない。将来の目的に即した進路を選ぶように指導している。（野田）

（2）エンパワメント1期生の1年を振り返って（藤田）

- ・1年間、生徒に規律を守らせることに取り組み、遅刻数は例年より半減以下に抑えることができた。
- ・今年度211名の入学者を迎えたが、転退学の対応については、担任を中心に話し合いを重ね、将来についてきちんと考えさせた上で進路変更を行っている。
- ・モジュール授業については、生徒は真剣に取り組んでいる様子が見られ、落ち着いた環境で授業を展開することができている。1年間の取り組みに手ごたえを感じている。
- ・前半は仲間作り、後半は職業観の育成を目的に行事を進めてきた。
- ・11月に行った「社長と話そう」（中小企業の社長と生徒とのグループディスカッション）や1月に行った「カタリ場」（大学生とのグループディスカッション）について生徒の反響が良かった。外部機関と連携することで、生徒の成長を促すことができる。
- ・行事の参加率が非常に良い。職業体験や球技大会など様々な行事に、生徒は前向きに取り組むことができている。
- ・進路は大学・短大希望者が28%、専門学校が30%、就職が19%、未定22%という状況である。
- ・1年間、様々なキャリア教育に取り組んだ結果、生徒にとって進路の選択肢が広がっている。

(意見)

- ・エンパワメントスクールのめざす形は？（里村委員）
→ 1期生、2期生において様々な取り組みを模索しながら形を作っていくことになる。
社会で通用する人間形成を念頭に、エンパワメントスクールのあるべき姿を作り上げたい。（山崎）
- ・モジュール授業の成果は？（里村委員）
→ 生徒からは学力向上につながったという意見が多い。（藤田）
- ・キャリア教育の一環として、個人の職業適性をデータ化し、それぞれの課題に応じた個別指導を行うことも有効ではないか。（門脇委員）
- ・学校見学会でモジュール授業を参観したが、30分授業は短く感じなかった。内容もわかりやすく良い授業であった。（篠崎委員）

【協議事項】

- (1) 平成27年度・学校教育計画および学校評価（山崎）
- (2) 平成28年度 学校経営計画および学校評価（山崎）

- ・教育センターの「パッケージ研修支援Ⅱ」を実施。全体研修、2回の研究授業ならびに全体研究協議実施により、授業改善、授業力向上の取り組みが定着した。
- ・中小企業家同友会会員社長の34名の協力により、キャリア支援授業として「社長さんと話そう」を開催した。事後アンケートの生徒の肯定的回答率はほぼ100%という結果を得ることができた。
- ・年間3回の授業公開で561名の参加者があり、学校見学を充実させることができた。

(意見)

- ・パッケージ研修は来年度も実施するのか？（門脇委員）
→ 教育センターが公募する研修で今年度限りのもの。来年度以降は教員が自発的に授業見学や授業改善研修を実施することを望んでいる。（山崎）
- ・教育界全体の問題として、キャリア教育の再構築が必要ではないか。（門脇委員）
→ ガイダンス部での素晴らしい取り組みを生徒に充分還元させる必要がある。（藤田）

- (3) 学校教育自己診断アンケート結果（鎌田）

- ・保護者からは、体育祭を実施するなど、生徒同士に関わりを持たせるような行事や取り組みを行って欲しいという意見も多かった。
- ・家庭学習については宿題を課す等の工夫により、生徒の学力伸長を図ることができる。
- ・「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導が行われている」と答えた教員の割合は高い。

(意見)

- ・大学では授業に10分間スピーチを取り入れている。課題について調べていない学生はスピーチができない。必然的に家庭学習をしなければならぬ授業づくりを行ってみたい。（門脇委員）
- ・学校の教育活動全体を通じて、勉強することの大切さを説くことが必要である。（篠崎委員）
- ・授業の冒頭で目標をきちんと提示した上で、授業を展開することが必要ではないか。（里村委員）